

様式第六（第八条関係）

（ 記 入 例 ）

特定施設設置届出書

平成〇〇年〇〇月〇〇日

盛岡市上下水道事業管理者（北上川上流流域下水道事務所長）様

申請者

住所 盛岡市内丸12-2 電話番号 019 (651) 4111

氏名又は名称及び法人にあ 株式会社〇〇〇〇

ってはその代表者の氏名 代表取締役 盛岡太郎 印

下水道法第12条の3第1項(下水道法第25条の18第1項において準用する同法第12条の3第1項)の規定により、特定施設の設置について、次のとおり届け出ます。


工場又は事業場の名称	〇〇〇ランドリー盛岡店	※整理番号	
工場又は事業場の所在地	盛岡市愛宕町6-8	※受理年月日	年 月 日
特定施設の種 類	67 洗濯業の用に供する洗浄施設	※施設番号	
△特定施設の構造	別紙のとおり。	※審査結果	
△特定施設の使用の方法	別紙のとおり。	※備 考	
△汚水の処理の方法	別紙のとおり。		
△下水の量及び水質	別紙のとおり。		
△用水及び排水の系統	別紙のとおり。		

備考

- 1 申請者の氏名（法人にあつてはその代表者の氏名）の記載を自署で行う場合においては、押印を省略することができる。
- 2 △印の欄の記載については、別紙によることとし、かつ、できる限り、図面、表等を利用すること。
- 3 ※印の欄には、記載しないこと。
- 4 届出書及び別紙の用紙の大きさは、図面、表等やむを得ないものを除き、日本工業規格A4とすること。

別紙 1

特定施設の構造

号 番 号 及 び 名 称	67 洗濯業の洗浄施設①	67 洗濯業の洗浄施設②
型 式	全自動洗濯機 RVM 型 (メーカー名) ※ カタログ, 仕様書等を添付してください。	全自動石油系ドライ機 DO-LM 型 (メーカー名) ※ カタログ, 仕様書等を添付してください。
構 造		(注意) 洗浄・脱液・乾燥を1台で行うドライ洗浄機は, トリクロロエチレンやテトラクロロエチレンが使用されていることが多いです。この場合, 特定施設番号 71 の5に該当します。
主 要 寸 法		
能 力		
配 置	別添-1のとおり	別添-1のとおり
工事着手予定年月日	平成〇〇年〇〇月〇〇日	平成〇〇年〇〇月〇〇日
工事完成予定年月日	平成〇〇年〇〇月〇〇日	平成〇〇年〇〇月〇〇日
使用開始予定年月日	平成〇〇年〇〇月〇〇日	平成〇〇年〇〇月〇〇日
その他参考となるべき事項		

備考 1 「配置」の欄には, 当該特定施設及びこれに関連する主要機械又は主要装置の数を記載すること。

2 事業場内の特定施設の配置図を添付すること。

## 別紙2

## 特定施設の使用の方法

号 番 号 及 び 名 称		67 洗濯業の洗浄施設①		67 洗濯業の洗浄施設②	
設 置 場 所		別添-1のとおり		別添-1のとおり	
操 業 の 系 統		受付→仕分け→水洗機→乾燥→製品		受付→仕分け→ドライ洗濯・脱液 →ドライ乾燥→製品	
使 用 時 間 間 隔		1回30分 1日10回 10:00～17:00		1回30分 1日5回 11:00～15:00	
1日当たりの使用時間		5時間		2.5時間	
使用の季節的変動		2, 8月は少なく, 5～7月が多い		同左	
原材料(消耗資材を含む。)の種類, 使用方法及び1日当たりの使用量		アルカリ洗剤 ○○kg/日 ※ 成分表を添付してください。		ターペン ○○ℓ/日 ※ 成分表を添付してください。	
汚 水 の 水 質	種 類 ・ 項 目	通 常	最 大	通 常	最 大
	水素イオン濃度	8.5	9.3		
	ノルマルヘキサン抽出物質含有量(動植物油脂)	30	40		
	生物化学的酸素要求量	450	650		
	浮遊物質	350	450		
汚 水 の 量 (立方メートル/日)		通 常	最 大	通 常	最 大
		○○	○○		
その他参考となるべき事項		営業時間 9:00～18:00			

備考 「汚水の水質」の欄には、当該特定事業場の排水に係る排水基準に定められた事項について記載すること。

別紙 3

汚水の処理の方法

処理施設の設置場所	別添-1のとおり				処理施設なし				
工事着手予定年月日	平成〇〇年〇〇月〇〇日				年 月 日				
工事完成予定年月日	平成〇〇年〇〇月〇〇日				年 月 日				
使用開始予定年月日	平成〇〇年〇〇月〇〇日				年 月 日				
種類及び型式	別添-2のとおり				別添-2の内容 構造図, 仕様書 処理のフローシート 等				
構造	〃								
主要寸法	〃								
能力	〃								
処理の方法	連続式								
処理の系統	別添-2のとおり								
集水及び導水の方法	自然流下								
使用時間間隔	断続的使用								
1日当たりの使用時間	10:00 ~ 18:00								
使用の季節変動	2, 8月は少なく, 5~7月が多い								
反应用消耗資材の1日当たりの用途別使用量	アルカリ・酸剤 〇〇g/日 凝集剤 〇〇g/日								
汚水の水質	種類・項目	通常		最大		通常		最大	
		処理前	処理後	処理前	処理後	処理前	処理後	処理前	処理後
	水素イオン濃度	8.5	8.5	9.3	8.7				
	ノルマルヘキサン抽出物質(動植物油脂類)	30	20	40	25				
	BOD	450	400	650	550				
	SS	350	250	450	350				
汚水の量 (立方メートル/日)	通常		最大		通常		最大		
	〇〇		〇〇						
残さの種類, 1月間の種類別生成量及び処理方法	汚泥〇〇m <sup>3</sup> /月 産廃業者処理委託 油分〇〇ℓ/月 産廃業者処理委託				ドライ機の分離水及び溶剤を専用タンクに貯留し, 産廃業者に処理委託				
排出水の排出方法	公設マス1個(別添-1)に排出								
その他参考となるべき事項	産廃回収業者等を記入 ※ 契約書の写しを添付してください。								

備考 1 「汚水の水質」の欄には, 当該特定事業場の排出水に係る排水基準に定められた事項について記載すること。

2 「排出水の排出方法」の欄には, 排水口の位置及び数並びに排水先を含め記載すること。

別紙 4

事業系及び生活系の総排水量を記入してください。

下水の量及び水質

排水口名	公設マス 1				単 位
	通常	最大	通常	最大	
排水量 (立方メートル/日)	〇〇〇	〇〇			
項 目					
温度					度
アンモニア性窒素, 亜硝酸性窒素及び硝酸性窒素含有量					ミリグラム/リットル
水素イオン濃度 (pH)					水 素 指 数
生物化学的酸素要求量 (BOD)					5 日間 ミリグラム/リットル
浮遊物質 (SS)					ミリグラム/リットル
ノルマルヘキサン抽出物質含有量					
{ 鉱油類含有量					ミリグラム/リットル
{ 動植物油脂類含有量					ミリグラム/リットル
窒素含有量					ミリグラム/リットル
リン含有量					ミリグラム/リットル
有機リン消費量					ミリグラム/リットル
カドミウム及びその化合物					ミリグラム/リットル
シアン化合物					ミリグラム/リットル
有機リン化合物					ミリグラム/リットル
鉛及びその化合物					ミリグラム/リットル
六価クロム化合物					ミリグラム/リットル
砒素及びその化合物					ミリグラム/リットル
水銀及びアルキル水銀その他の水銀化合物					ミリグラム/リットル
アルキル水銀化合物					ミリグラム/リットル
ポリ塩化ビフェニル					ミリグラム/リットル
トリクロロエチレン					ミリグラム/リットル
テトラクロロエチレン					ミリグラム/リットル
ジクロロメタン					ミリグラム/リットル
四塩化炭素					ミリグラム/リットル
1, 2-ジクロロエタン					ミリグラム/リットル
1, 1-ジクロロエチレン					ミリグラム/リットル

シスー1, 2-ジクロロエチレン					ミリグラム/リットル
1, 1, 1-トリクロロエタン					ミリグラム/リットル
1, 1, 2-トリクロロエタン					ミリグラム/リットル
1, 3-ジクロロプロペン					ミリグラム/リットル
チウラム					ミリグラム/リットル
シマジン					ミリグラム/リットル
チオベンカルブ					ミリグラム/リットル
ベンゼン					ミリグラム/リットル
セレン及びその化合物					ミリグラム/リットル
ほう素及びその化合物					ミリグラム/リットル
ふっ素及びその化合物					ミリグラム/リットル
1, 4-ジオキサン					ミリグラム/リットル
フェノール類					ミリグラム/リットル
銅及びその化合物					ミリグラム/リットル
亜鉛及びその化合物					ミリグラム/リットル
鉄及びその化合物 (溶解性)					ミリグラム/リットル
マンガン及びその化合物 (溶解性)					ミリグラム/リットル
クロム及びその化合物					ミリグラム/リットル
ダイオキシン類					ピコグラム/リットル
摘 要					

- 備考 1 「排水口名」の欄には、排水口は原則として工程系下水と生活系下水に分けて記入すること。
- 2 「下水量」の欄には、各々の排水口での量であり、同じ排水口に工程系下水と生活系下水が混合する場合区分して記入すること。
- 3 「水質」の欄には、排水口ごとの水質を記入すること。(工程系下水の場合除害施設の出口の水質と一致しないことがあります。)
- 4 「摘要」の欄には、排出汚水の水量又は水質の推定の根拠等を記載すること。

※ 記入上の注意

- 1 公設マスに流入する直前の排出汚水に含まれる項目について記載してください。
- 2 含まれる項目の数値及び排水量が推定値の場合、根拠を示す説明書を添付し、後日、水質検査表を提出してください。
- 3 公設マスに流入する下水が、水質基準を超えるおそれのない生活排水だけの場合は記載を省略できます。

別紙 5

用水及び排水の系統

<p>用水及び排水の系統</p>	<p>別添－ 1 のとおり</p> <p>※ 別添－ 1 の記載内容</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 事業場等建物の平面図</li> <li>2 特定施設及び除害施設等の位置</li> <li>3 給水経路（青色）と公設マスまでの排水経路（赤色）</li> <li>4 必要によって雨水排水経路（緑色）</li> </ol>	
<p>用途別用水使用量 (立方メートル/日)</p>	<p>用 途</p>	<p>用 水 量</p>
	<p>洗濯機用水</p>	<p>〇〇</p>
	<p>作業用水（床洗浄等）</p>	<p>〇〇</p>
	<p>生活用水</p>	<p>〇〇</p>